

販売店様・加工店様へのお願い



注意

- ◎棟風本体の切り詰め加工は、漏水の原因につながりますので行わないでください。
- ◎棟風は屋根棟水平部で一番高い場所の中央部へ取付けしてください。
- ◎棟風は適する屋根と適応屋根勾配範囲内で取付けてください。
- ◎シーリング材はシリコン系をご使用ください。
- ◎回転部のスプラインゴムは絶対に切断しないでください。

お願い

- ◎施工を始めてから手直しが出ないよう事前に調査や打ち合わせを十分に行ってください。
特に設計者や工務店様と取付けスペース・工程・搬入実施日・搬入場所・施工実施日等、綿密な打ち合わせをしてください。
- ◎製品の運搬や取付けの際はキズを付けないように気をつけてください。
- ◎建物に取付ける部材・部品は建物のたる木等の構造部材に確実に固定してください。
- ◎水平・垂直・直角は必ず正確に出してください。正確に出ていないと取付かない場合があります。
また、十分な強度が出てない場合もあり大変危険です。注意してください。
- ◎取付けの際、釘・ネジ等は規定本数を確実に締付けて固定してください。建物に孔をあけたりネジを止めたりした場所には確実にシーリングを施してください。

適応屋根

タイプ	屋根材	屋根の形	取付部分	屋根勾配
平型	金属屋根	切妻及び寄棟	棟の水平部	25/100~50/100
平型片流れ	化粧スレート板屋根	片流れ		

梱包内容

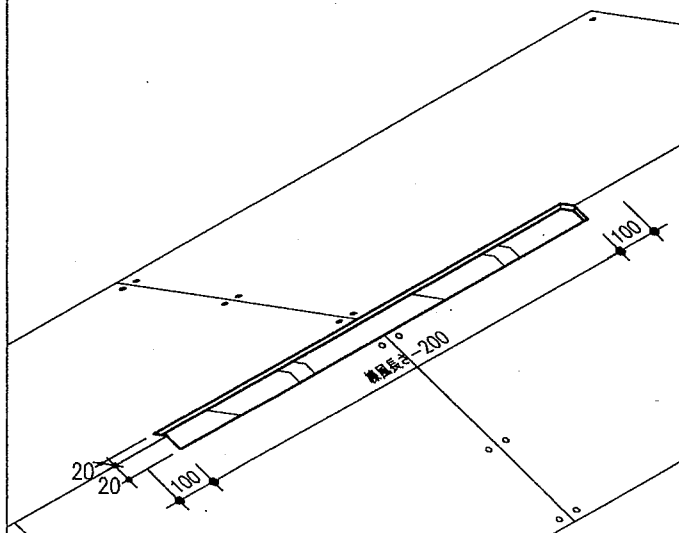
名称	製品記号	長さ	梱包内容
棟風 平型	SRMHG06N	L = 600	本体(1) セット部品(1) 施工マニュアル(1) シーラー(2)
	SRMHG09N	L = 900	本体(1) セット部品(1) 施工マニュアル(1) シーラー(2)
	SRMHG18N	L = 1800	本体(1) セット部品(1) 施工マニュアル(1) シーラー(4)
棟風 平型片流れ	SRMHK09N	L = 900	本体(1) セット部品(1) 施工マニュアル(1) シーラー(2)
	SRMHK18N	L = 1800	本体(1) セット部品(1) 施工マニュアル(1) シーラー(4)

名称	製品記号	梱包内容
平型 エンド	RGB2AN	本体(R/L各1) セット部品(1)
平型 ジョイント	RG3A	本体(1)
平型片流れ エンド	RHB2A	本体(R/L各1) セット部品(1)
平型片流れ ジョイント	RH3A	本体(1)

施工手順 (化粧スレート板屋根・金属屋根)

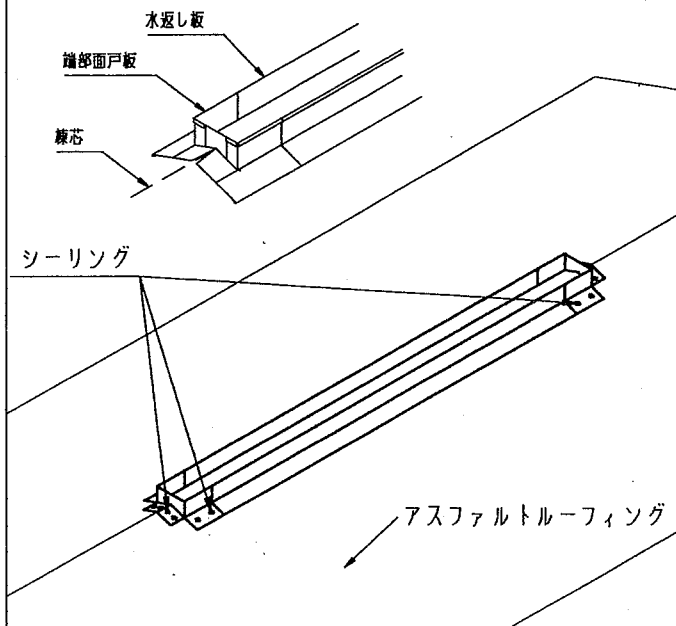
1 通気孔のあけ方

- ①下図のように棟心から片側20mm以上の隙間を設け野地板を打ち付けます。
- ②アスファルトルーフィング22kg以上を使用して全面貼りします。



3 水返し板と端部面戸板の取付

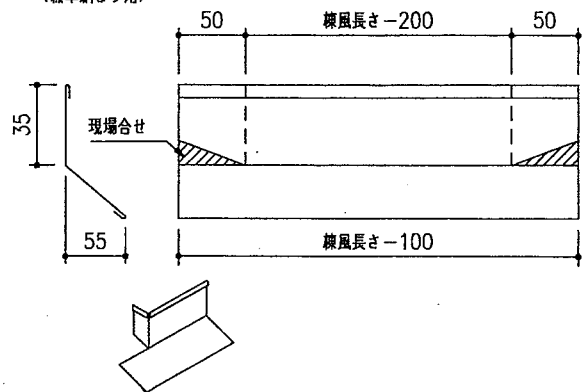
- ①2で製作した水返し板・端部面戸板を野地板に取付ます。
この際、棟の中心線を水系等で決め、それに合せて納めてください。水返し板の芯が出ていないと笠木のセットが狂い本体の取付に無理が生じたり雨漏れの原因になります。
- ②打ち付けた釘の頭にシーリングを施してください。



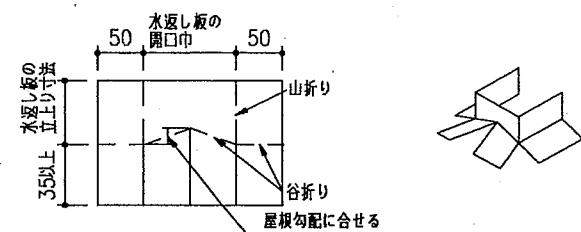
2 水返し板と端部面戸板の製作

- ①下図を参考に水返し板と端部面戸板を製作します。

●水返し板の加工
(標準納まり用)

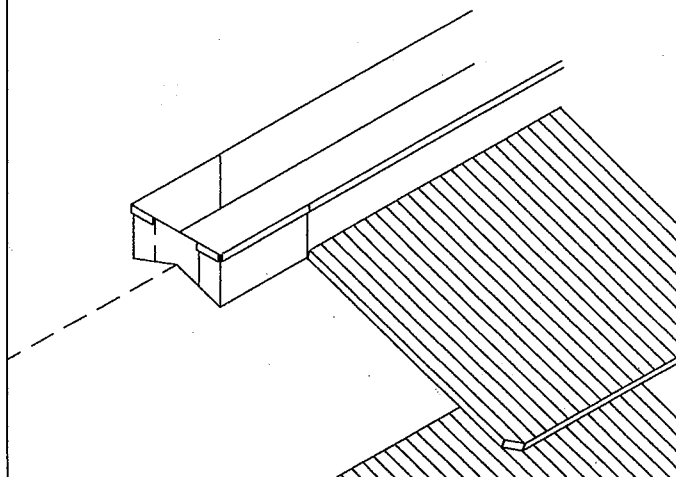


●端部面戸板の加工



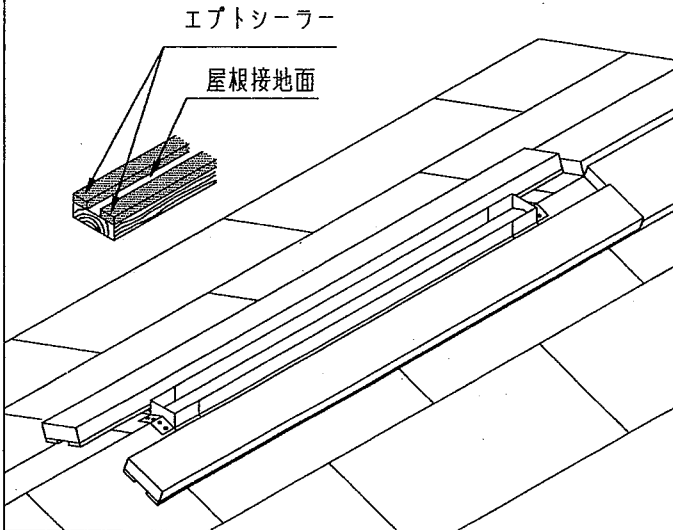
4 屋根材の取付

- ①屋根材を寸法に合せて切断し従来の施工方法で張り上げます。
- ②屋根材は水返し板及び端部面戸板まで、葺いてください。



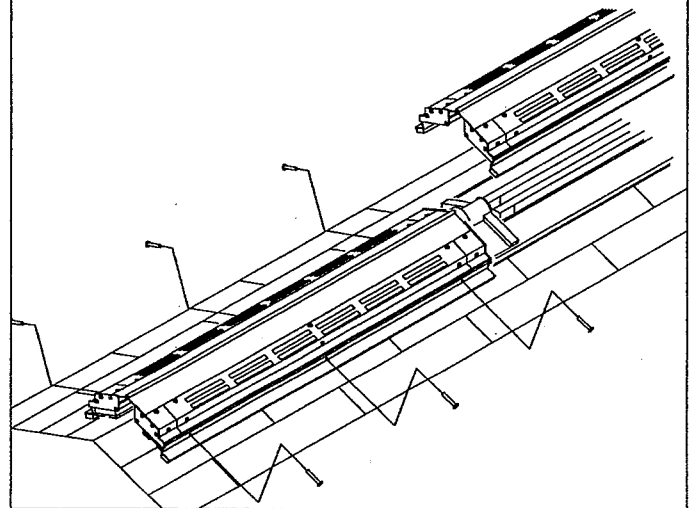
5 笠木の施工

- ① 本体を仮置きして笠木(厚さ18mm, 巾45mm)の取付け位置を決め墨出しをしておきます。
- ② 笠木に付属のエプトシーラーを貼付けます。
(屋根の凸凹による隙間を防止する重要なポイントです。)
- ③ 打ち付けは墨出し線に添って正確に行ってください。狂うと本体の取付けに無理が生じます。又、釘はタル木に打ち付けるようにして下さい。
- ④ 笠木は水返し板の端部より100mmくらい長く設け、棟板とぶつける様に施工してください。



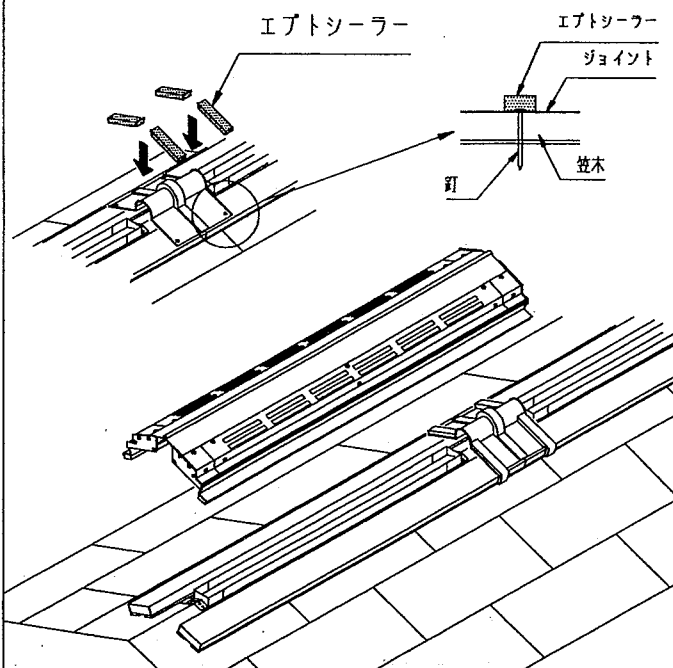
7 棟風本体の施工

- ① 棟風本体をジョイント・笠木にピッタリと納まるようセットします。
- ② 目地は冬期: 4~5mm, 夏期: 2~4mm程あけて取付けるようにしてください。
(目地は後でシーリングします。)
- ③ 付属のステンレス釘で笠木に打ち付け固定してください。



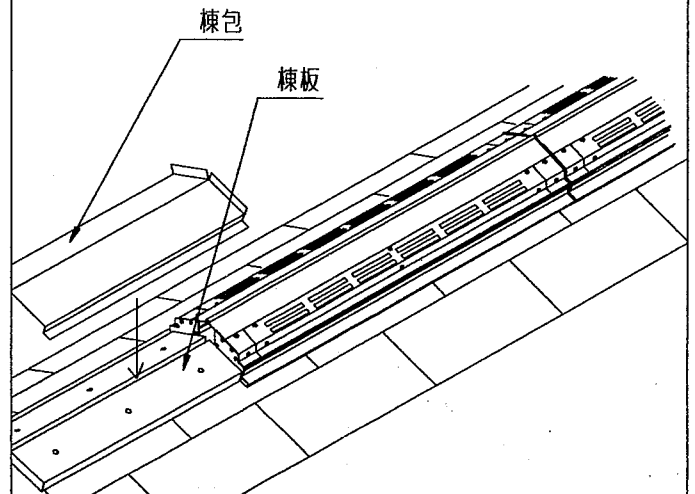
6 ジョイントの施工

- ① 2本以上取付ける場合はあらかじめ本体を仮置きしてジョイント部の位置を出し、ジョイントの中心が棟風本体の継ぎ目になるように笠木に釘止めます。
- ② ジョイントを止める釘の位置にエプトシーラー(笠木に取付けた残り)を笠木の下まで施してください。



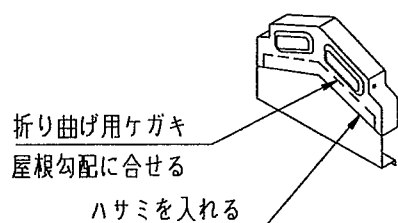
8 棟包の取付け

- ① 棟包端部を立ち上げ棟風本体に突き当てる様に取付けます。

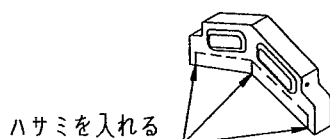


9 エンドキャップの加工方法

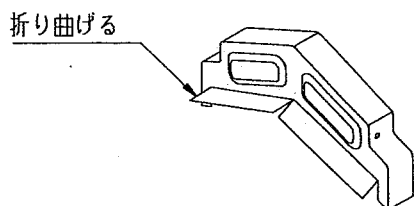
1



2

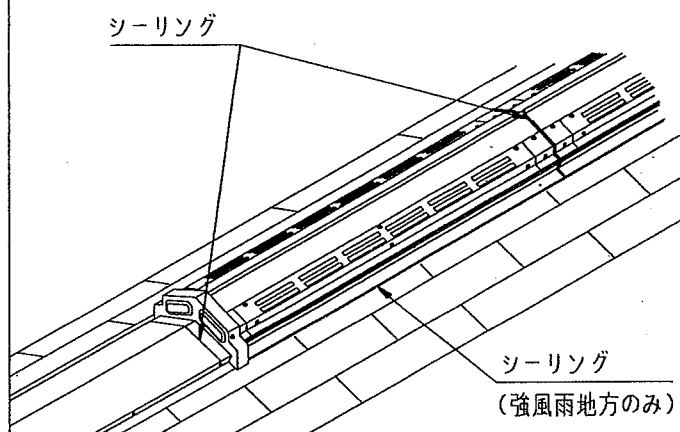


3. 完了図



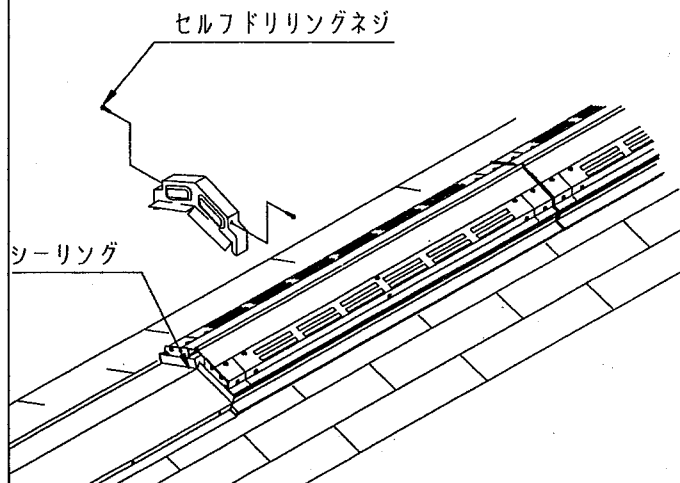
11 シーリング

- ① 全て固定し終わった後で 棟包とエンドキャップの囲・ジョイント部・釘の頭等雨漏りの無いようシーリングを施して完成です。(強風雨地方では棟風本体と屋根材の隙間にもシーリングを施してください。)



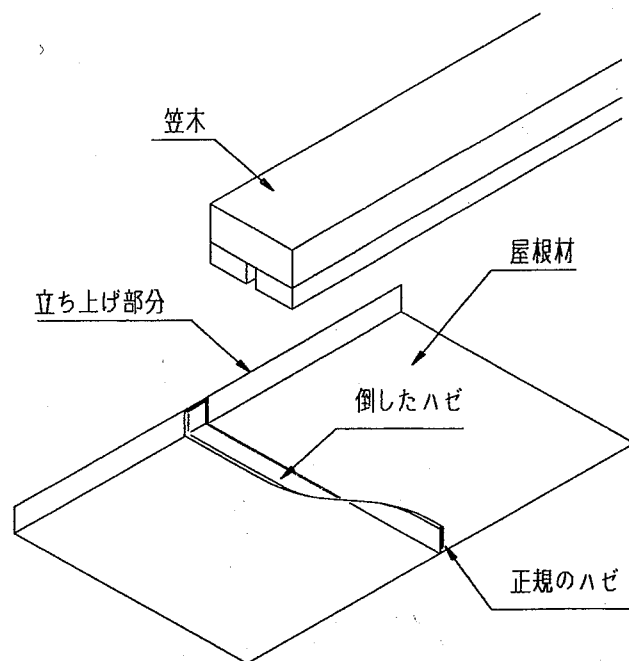
10 エンドキャップの施工

- ① 棟風本体の端部にシーラーを貼りキャップを取付けます。
- ② エンドキャップは隙間なく納まるよう必要に応じて加工してください。加工方法は「エンドキャップの加工方法」を参考にしてください。
- ③ エンドキャップの横に固定用の穴が明いていますのでドリルで本体に穴を明け、ブラインドリベット又はセルフドリリングネジ等で固定してください。
- ④ エンドキャップと本体の間に十分シーリングをしてください。



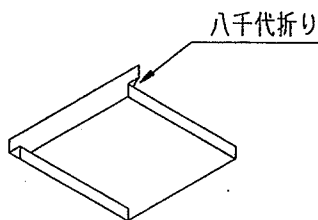
● ありがけぶき・立ちひらきぶき

- ① 図のようにハゼを倒しその上から笠木を打ち付けてください。立ち上げ部分は水返し板として利用します。
- ② 以降の施工はカラートタン平ぶきと同じ要領で行ってください。



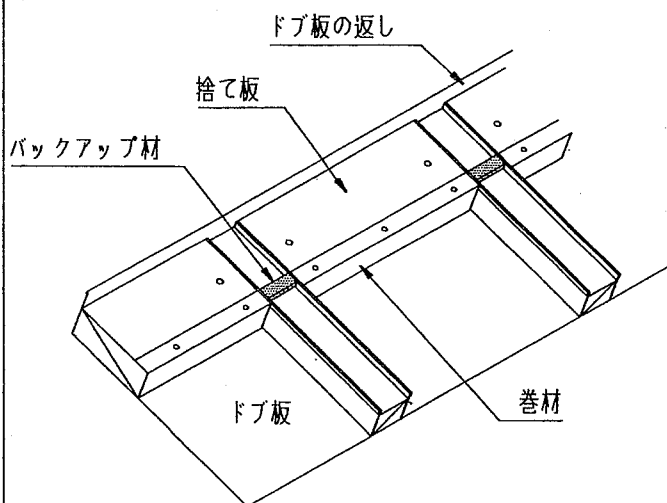
施工手順（金属屋根－瓦棒ぶき）

①ドブ板を八千代折りにして立ち上げます。



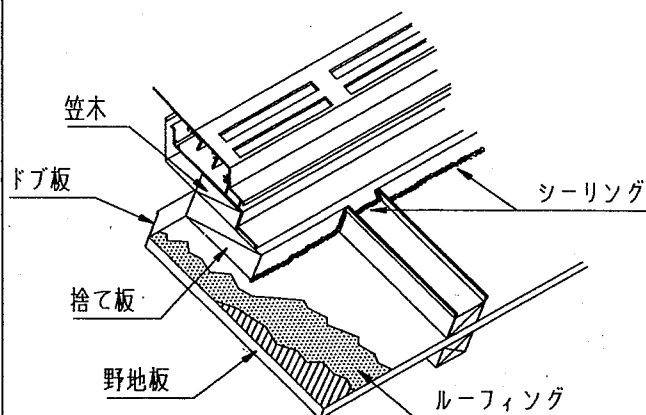
②図のように瓦棒と瓦棒の間のドブ板に瓦棒の高さと同じ厚さの捨て板を打ち付けてください。（取付け前にシーリング処理を行ってください。）

③この時捨て板に屋根板と同じ材質・色調の巻材で巻いておくと仕上がりがきれいです。



④笠木に付属のエプトシーラーを貼付け、タル木に充分届く長さの釘で打ち付けます。（この時タル木は、瓦棒のある部分しかありませんので充分注意してください。）

⑤瓦棒のキャップ部の溝はバックアップ材を詰めておき、棟風本体を取付けた後シーリングをして雨漏れを防いでください。

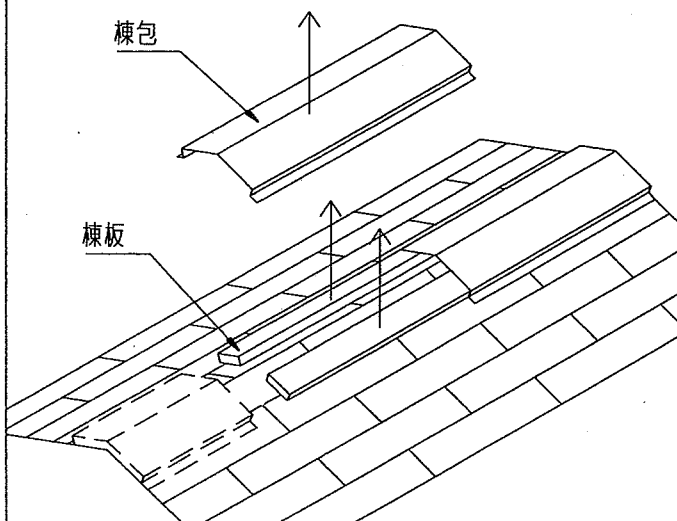


（改装）

棟包・棟板の取り外し

①棟風取付部の棟包及び棟板を取り外します。

②施工時には屋根材を破損しないように充分気をつけてください。以降の作業も同じです。



屋根材の加工

化粧スレート板屋根の場合

①取付部の化粧スレート板を取り外してください。

⇒以降は、「施工手順（化粧スレート板・金属屋根）1 通気孔のあけ方」へ

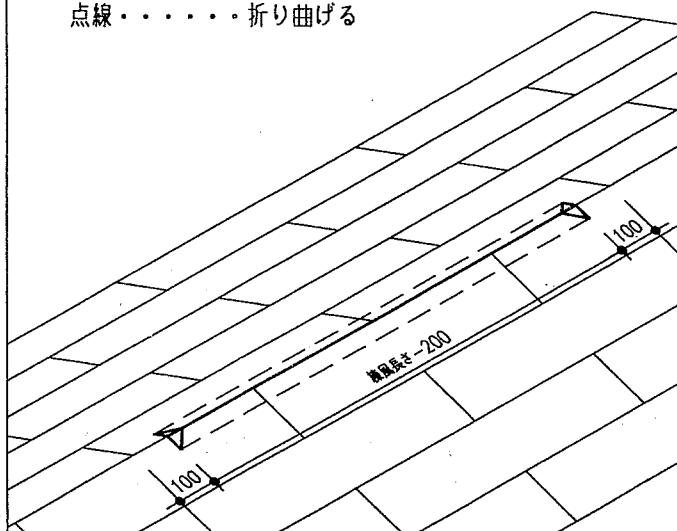
金属屋根の場合

①既存の屋根材を図のようにハサミをいれます。

②点線の所までトタンを起こして水返し板とします。

③本体取付け長さよりあらかじめ両端100mmずつ短い寸法で切り込むように注意してください。

注 太線・・・・・・ハサミをいれる
点線・・・・・・折り曲げる

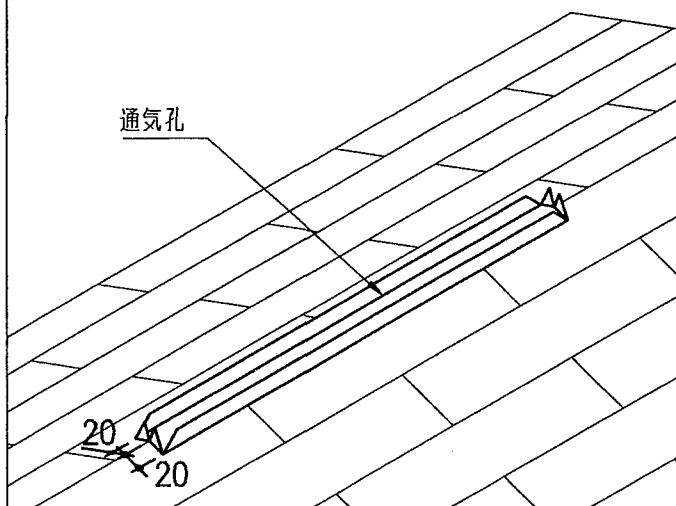


施工手順（改装）

通気孔のあけ方

金属屋根の場合

- ①既存の野地板に棟から片側20mm以上の隙間を電気丸ノコで開けてください。

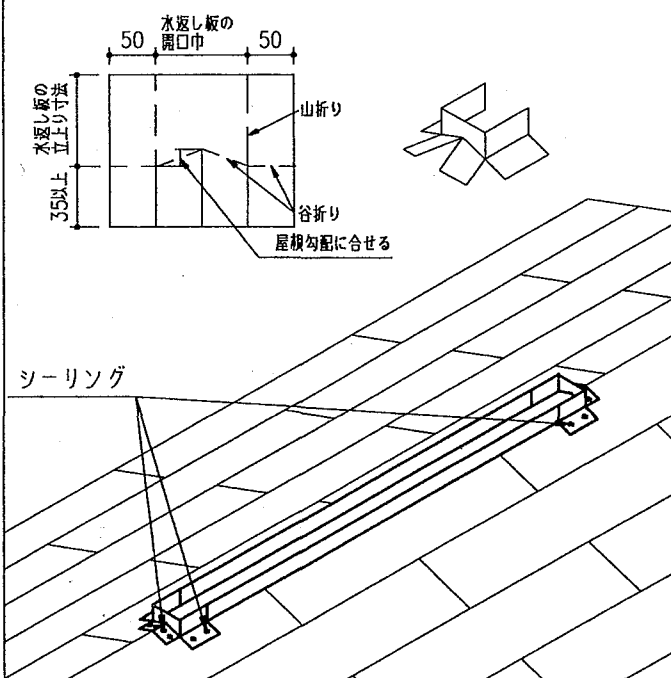


端部面戸板の施工

金属屋根の場合

- ①下図のように加工した端部面戸板を図のように施工してください。
②打ち付けた釘の頭にシーリングを施してください。

●端部面戸板の加工



⇒以降は、「施工手順（化粧スレート板屋根・金属屋根）
5 笠木の施工」へ

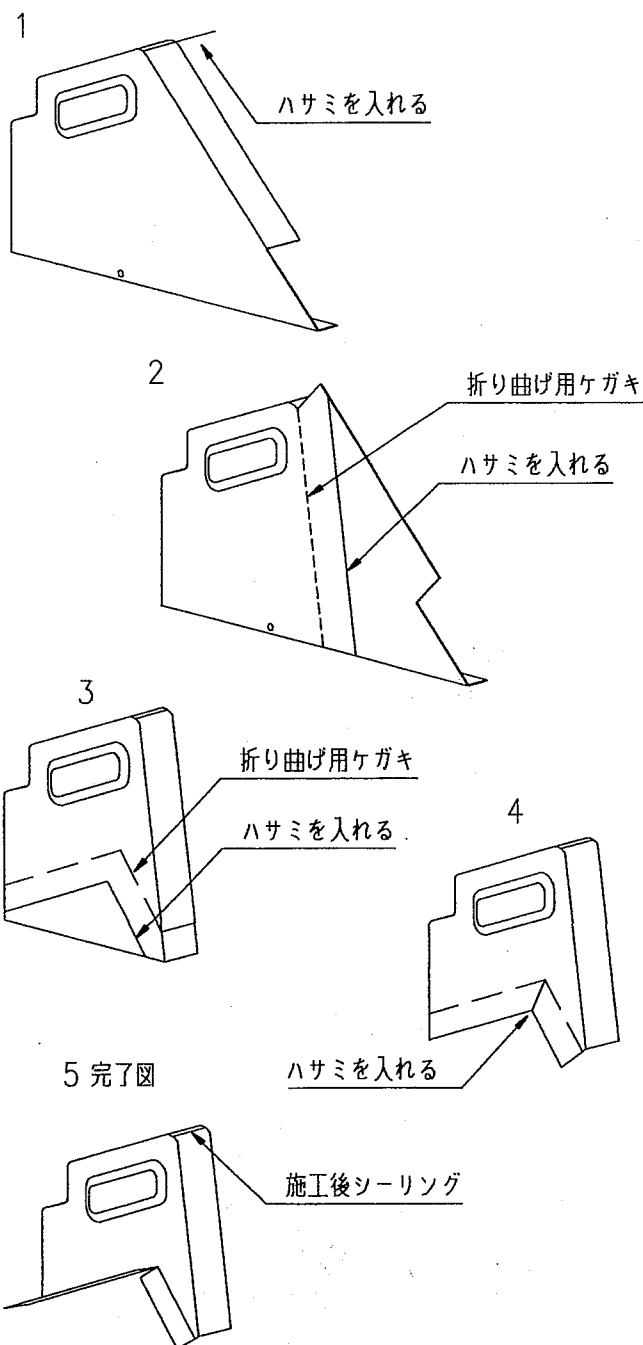
（平型片流れ）

●施工のポイント

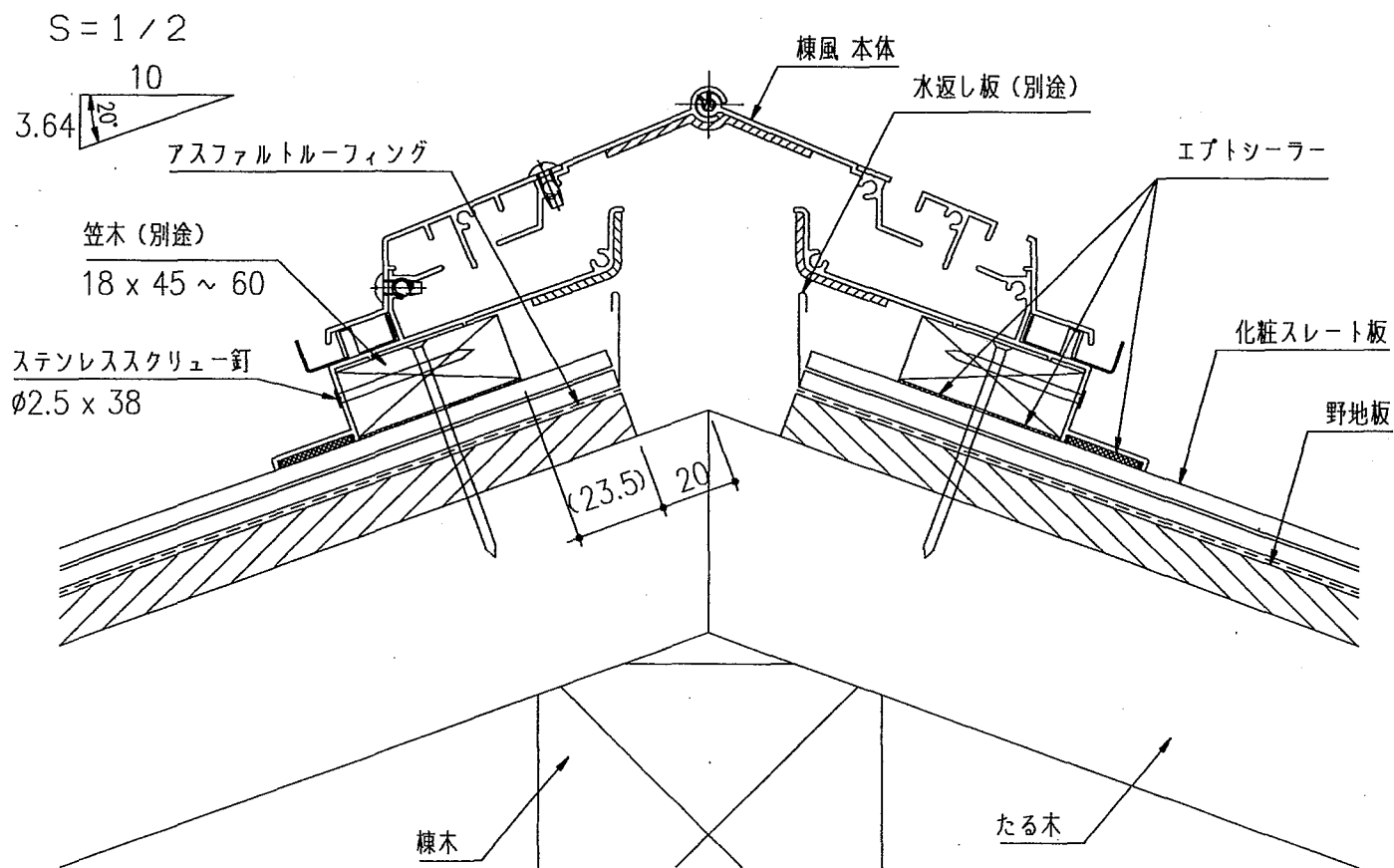
- ・野地板の打ち付け
棟木から20mm以上の隙間をあけてください。
家のタイプにより棟木の取り合いが異なる場合には本体を仮置きして通気孔の位置を確認してください。
- ・水返し板の打ち付け
化粧スレート板屋根・瓦葺屋根には金属板を折り曲げ加工して納めてください。
金属屋根の場合は屋根を立上げて水返しにします。
- ・エンドキャップの施工
左端用と右端用がありますので注意してください。

⇒以降は平型タイプと同じです。

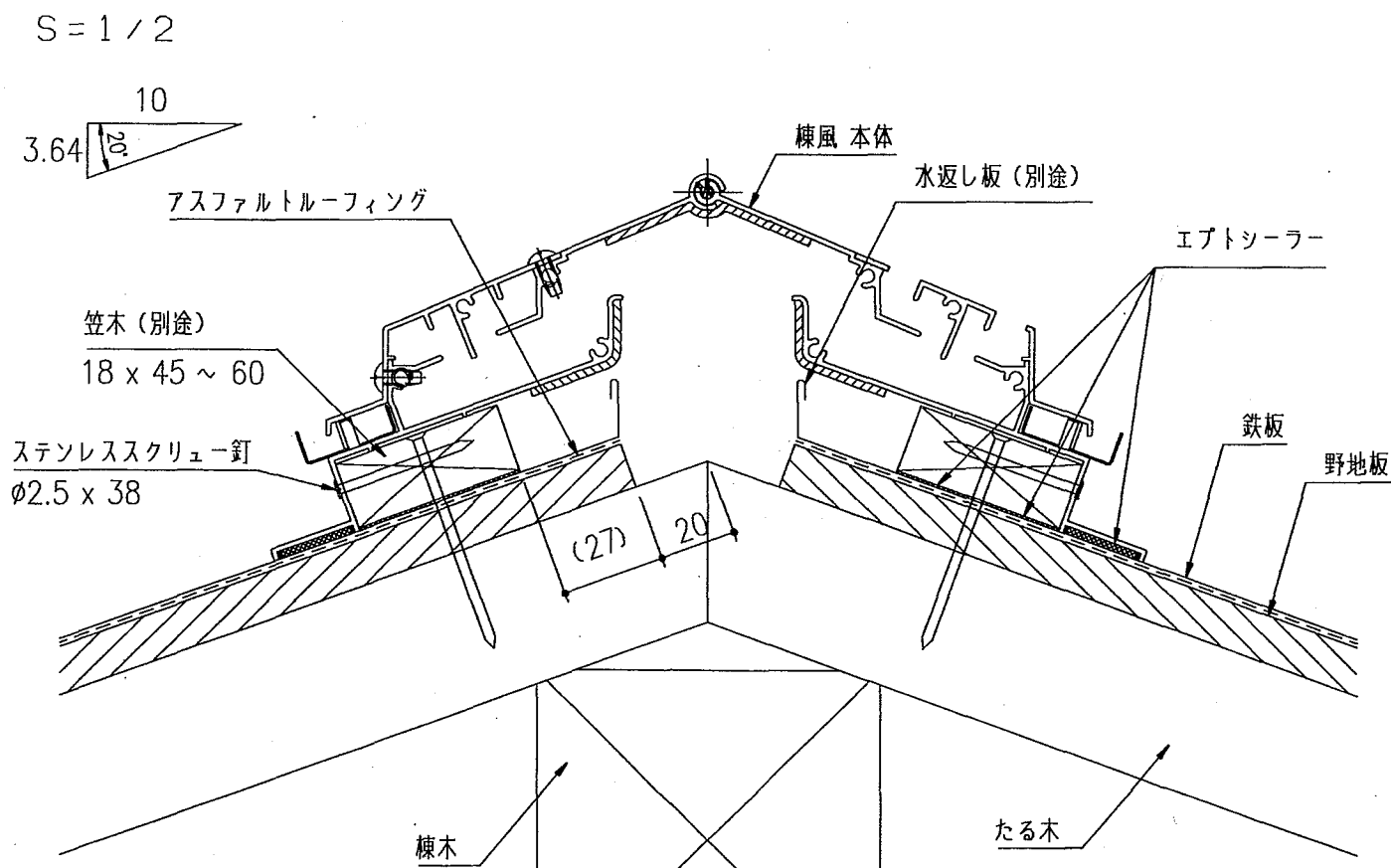
●エンドキャップの加工方法



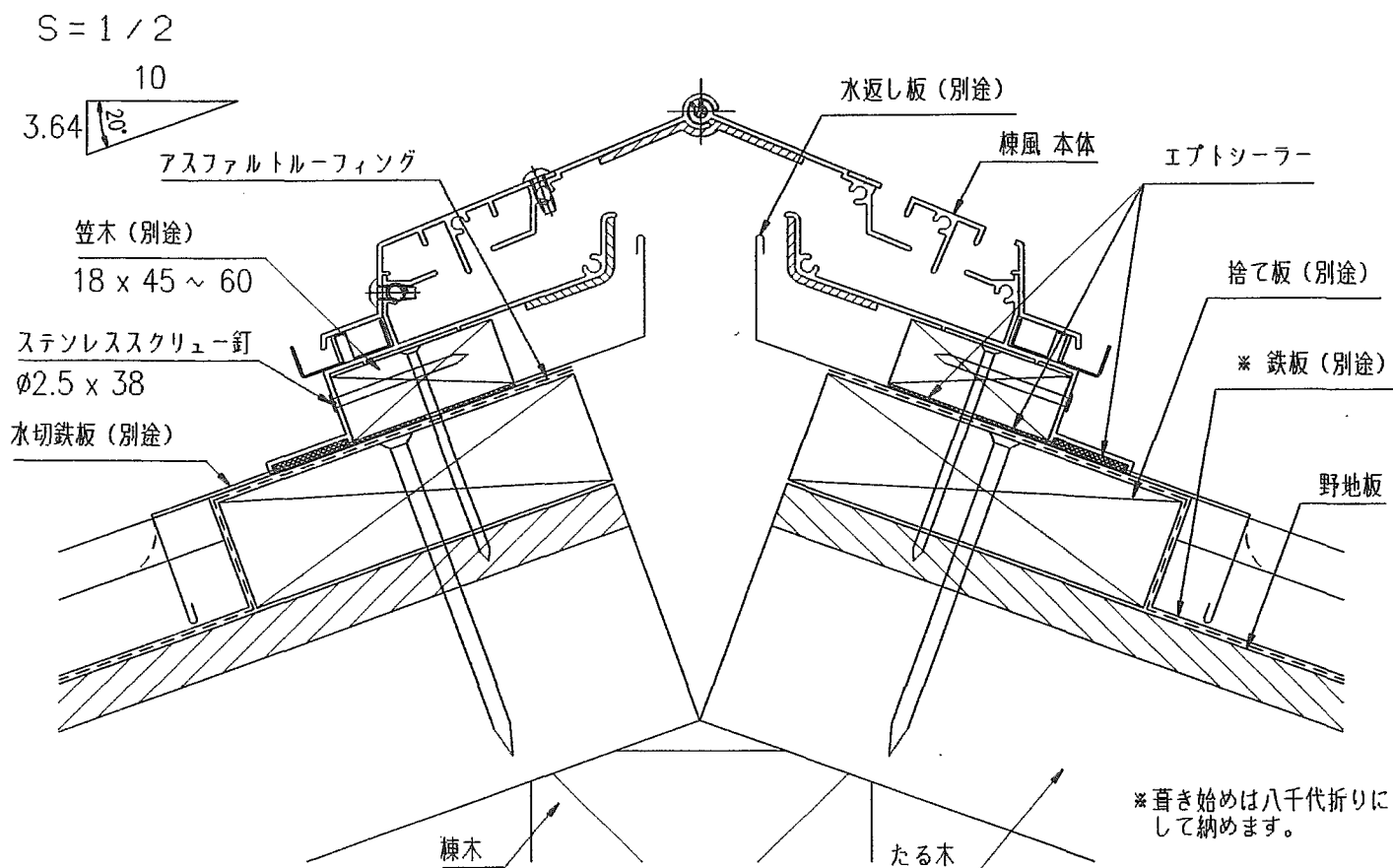
基本納まり図（平型－化粧スレート板）



基本納まり図（平型－金属屋根・平ぶき）



基本納まり図（平型－金属屋根・瓦棒ぶき）



基本納まり図（平型片流れ－化粧スレート板）

